

大塚亞久義 (複製)

A. 2. 0. 0. 7-4

REEL No. A-1211

0406

大東亞會議

外務省

目次

- 第一、大東亞會議開催ニ関スル帝國政府ノ方針決定ニ至ル迄ノ世界情勢判断
- 一、東亞ニ於ケル新秩序建設ノ過程
- 二、及極軸軍ノ攻勢
- 三、米英世界制覇ノ野望ト大東亞結集ノ要請
- 第二、昭和十八年十月二日大本營政府連絡會議了解
「大東亞會議開催ニ関スル件」
- 第三、大東亞會議開催ニ関スル帝國政府訓令
- 第四、招請狀
- 第五、大東亞會議事務局
- 第六、大東亞會議ノ開催

外務省

一、會議次第

二、大東亞共同宣言、採擇

三、會議ニ於テル日本國代表挨拶、各國代表所見及發言
 (附)「アンガマン」諸島及「ニコバル」諸島ノ歸屬ニ関スル件

外務省

第一 大東亞會議開催ニ関スル帝國政府ノ方針決定ニ至ル迄ノ世界情勢判斷

一、東亞ニ於テル新秩序建設ノ過程

帝國政府ハ昭和十六年十二月八日大東亞戰爭開始以來ノ皇軍ノ赫々タル戰果ニ即應シ内外ノ政略態勢ヲ整備強化スルニ努メ中華民國ニ對シテハ昭和十八年一月九日戰爭完遂ニ付テノ收力ニ関スル日華共同宣言ヲ發シ日華兩國ハ戰爭完遂ノ爲軍市上ノ政治上及經濟上完全ナル協カヲ爲ス旨ヲ約スルト共ニ租界還付及治外法權撤廢等ニ関スル兩國協定ヲ締結シ以テ中國ノ自主獨立達成ニ全幅ノ協カヲ爲ス旨ヲ約シテ爾來銳意且着實ニ右協定ノ趣旨實現ニ一途邁進シ來ル處更ニ十月三十日ニハ日本國中華民國間同盟條約ヲ締結シ大東亞戰爭發生

外務省

後ノ新事態ニ即應スル日華兩國提携ノ新ナル基礎ヲ確立スルニ至レリ。

「ビルマ」ニ對シテハ昭和十八年八月一日「シヤン」及「カレン」地方ヲ除ク「ビルマ」行政府ノ管轄スル地域ヲ版圖トシテ獨立ヲ許容シ以テ新興「ビルマ」國ヲ建設シ更ニ「フイリピン」ニ對シテハ十月十四日同ジク獨立ヲ許容シ之ヲ米國「フィリピン」ヨリ解放シテ同國民族多年ノ宿願ヲ達成セシメ更ニ「タイ」國ニ對シテハ帝國政府ハ既ニ大東亞戰爭前ヨリ常ニ友好的關係ヲ維持セルカ戰爭勃發スルヤ昭和十六年十一月二十一日之ト同盟條約ヲ締結シ以テ共同ノ敵米英ニ對スル戰爭完遂ノ決意ヲ明ニシタリ。他方「タイ」國ハ八月「タイ」同盟條約ニ從ヒ昭和十七年一月二十日日米英兩國ニ對シテ宣戰セリ

爾來兩國ハ緊密ニ相提携シ新秩序建設ニ邁進スル處アリタルカ本年更ニ「タイ」國國運ノ隆盛ト繁榮ニ資スル爲八月二十日「マライ」

外務省

及「シヤン」地方ニ於ケル「タイ」國ノ領土ニ關スル日本國「タイ」國間條約ヲ締結シ之ニ依リ日本國ハ「シヤン」國カ島末四州即チ「ケラシタン」「トレンガヌ」「ケジョ」「ホルリン」各州及附屬島嶼並ニ「シヤン」地方ニ於テ「ケントシ」及「モンパン」兩州ヲ其ノ領土トシテ編入スルコトヲ承認シ更ニ新興「ビルマ」國ニ對シテハ九月十五日「シヤン」地方等ニ於ケル「ビルマ」國ノ領土ニ關スル日本國「ビルマ」國間條約ヲ締結シ「シヤン」及「モンパン」兩州以外ノ諸州並ニ「ワ」地方ヨリ「ビルマ」國カ其ノ領土トシテ編入スルコトヲ承認シ新興「ビルマ」國ノ國ヲ愈々鞏固ナラシメ以テ共同戰爭完遂ニ資セシムルニトセリ。之ニ加フルニ帝國政府ハ昭和十八年六月ノ臨時議會ニ於テ「東條首相」言明ノ本旨ニ從ヒ「マライ」「スマトラ」「ジャワ」「ボルネオ」「セレベス」等ニ於ケル原住民ノ急務ニ基キ夫々ノ民度ニ應ジテ原住

外務省

民ノ政治參與ニ關スル措置ヲ實施セリ。
 離ラズ敵英國多年ノ榨取ト正政ニ呻吟スル印度ヲ見ルニ印度四億
 民衆ハ大東亞戰爭ヲ按トシ英國ノ雄權ヲ啖ヤントスル氣運續ニ
 昂揚シソツアルモ、未タ英國ノ鐵蹄下ニ蟄伏ス居ナリ。時偶々、スハ
 ス・チヤンドラ・ホーミスレ氏ハ印度解放ノ愛國ノ熱情ト熱烈ナル
 敢闘精神ヲ抱イテ來朝シ、亦求招命ニ於テ印度解放戰ニ備
 フル所アリケレバ、其ノ準備成ルヤ十月三日自由印度政府ヲ組
 織シテソノ首班トナリ國民軍ヲ率テ印度解放戰ニ挺身スルノ
 決意ヲ固ムルニ至レリ、仍テ帝國政府ハ同月二十三日同假政府ヲ
 承認シ以テ之ニ全面的協力ヲ支援ヲ喚ブル態度ヲ明シシリ、而
 シテ大東亞各國モ亦帝國政府ノ措置ニ同調シ自ら進ニテ同假
 政府ヲ承認スルモノ續出セリ。
 滿洲國ニ付テハ茲ニ贊言ヲ要セサルハナカ同國ハ建國ト共ニ

外務省

日本國滿洲國間議定書ニ基キ日滿一徳一心ノ極メテ鞏固ナル
 關係ヲ確立シ、以テ大東亞戰爭勃發前後ヲ通シ終始不動ノ
 決意ヲ以テ東亞ニ於ケル新秩序建設ノ大業ニ参列セリ。
 二 反軸軍ノ政勢
 東亞ニ於テ新秩序カ着々トシテ具現セラレソツアル時米英
 兩國ハ滿洲事變及支那事變ニ乘リ、事毎ニ東亞平和ノ再建
 ニ妨害ヲ加ヘ殊ニ支那事變ニ際シテハ重慶ニ殘存スル政權ヲ
 支援シテ、東亞ノ禍乱ヲ助長シ刺ヘ与國ヲ誘ヒ、帝國ノ周辺
 ニ於テ武備ヲ増強シテ挑戰シ、更ニ帝國ノ平和的通商ニ有ス
 ル妨害ヲ喚ブルニ爲經濟斷交ノ舉ニ出ラ遂ニ帝國ヲ窮地ニ陥
 入レタリ然モ大西洋憲章ヲ醫ニ現状維持ノ政策即チ米英
 的世界秩序ノ維持擁護ヲ求メ或ハ過去ニ於テ鵬大ナル榨取ノ

外務省

遂に基礎トスル物的量的戦力ヲ背景トシテ益々戦備ヲ
完成シ以テ激烈ナル反抗ヲ増シ来リ其ノ戦力蓋シ悔リ難キモノ
アリ。

即チ政制ノ情勢ヲ見ニ米英ノ傳統政策タル他人ノ犠牲ニ於
テ利ヲ圖ラントスル政策ハ愈々露骨ナリ「ソ」聯必至ノ要
求ニモ拘ラス末タ第二戦結成ノ際ニ出スルヲ躊躇シ居ルモ地中
海ニ於テハ米英兩軍ハ膨大ナル艦艇ト航空機並ニ優力ナル多数
ノ兵員ヲ擁ヒテ、遂ニ「チエニシ」ヲ占據シ更ニ進ニテハ「ミナリア
島」ヲ陥落セシメ機ニ乘シ勢ヲ頼ミ、一方ニ於テ「ローマ」ヲ空爆シテ
無辜ナル老幼婦女ヲ殺戮シ且歴史的文化ヲ灰燼ニ帰セシメ
以テ伊國ノ政変ヲ誘発セシメ伊國統帥國民ノ戰意喪失ヲ招フ
ト共ニ他方「ムソソリ」ニ首相ヲ後継タル「バドリオ」政府ト内通シ
遂ニ同政府ヲシテ無條件降伏ヲ爲サシムルコトニ成功セリ。

外務省

斯クノ如クノ如ク米英カ鬼ノ角モ樞軸陳管ノ一角ニ上陸シ戰禍カ伊太
利半島ノ南中部ニ波及スルニ至ルル一方、独乙國ハ東部戦線ニ於テ
第三年目ヲ迎フト共ニ「ソ」聯必死ノ反攻ハ愈々高潮ニ達シタルカ、
独乙軍ハ伊太利ニ備ヘ其ノ歐洲要塞ヲ固メ戰略的優位ノ態勢ヲ
確保スル爲昭和十八年ニハ例年ノ夏季攻撃ヲ執ルコトナリ、却テ東
部戦線ヨリ遂次撤收ヲ断行シ九月末ニハ赤軍ハ遂ニ「ドニエツル」
河ニ到達セリ。

翻テ東亞ノ戦局ヲ見ルニ北洋ノ戦場ニ於テハ「アツツ」島守備ノ
皇軍將負ハ寡兵能ク優勢ナル敵軍ノ攻撃ヲ一切ナラス撃退シ
タレモ遂ニ全將兵悉ク盡忠報國ノ鬼トナツテ玉碎シ、更ニ皇軍ハ
諸般ノ諸情勢ニ鑑ミ「キヌカ」島ヨリ至難ナル情況ニ於テ天佑
神助ノ下一兵ヲ捐セヌシテ無事撤收ヲ完了スルニ至リ。西南太
平洋方面ニ於テモ敵ノ反攻ハ戦力ノ増強整備ト共ニ愈々熾烈

外務省

化シ皇軍カ「カシムカナル」ヲ撤收スルヤ、更ニ執拗ニ北上シ企圖シテ止
マズ或ハ長驅皇軍ノ占據地域ヲ空襲シ或ハ虎視眈々トシテ帝國
本土ヲ衝カントスル勢ヲ示セリ。更ニ東南亞細亞ニ於テハ敵ハ
夙ニ「ビルマ」奪回ヲ呼号シ十月ヨリ以テ總反攻開始ノ時ナリト喧傳
ニ放ケタリ。
實ニ戰ノ一進一退一修一高ハ不斷ニ變化シテ止マズモ洋ノ東西ヲ
問ハス戰爭ハ長期化シ新秩序建設ト舊秩序維持ノ抗爭ハ全
面的ニ激化セリ。

三、米英世界制覇ノ野望ト大東亞結集ノ要請

米英兩國ハ斯クノ如ク旺盛ナル戰意ト豊富ナル物資カヲ持テ
トシテ愈々反抗ノ氣勢ヲ昂揚シツツアル處、彼等カ此ノ戰爭
ヲ戰フコトニ依テ果シテ何ヨク止國ニ居ルヤハ戦ニ明白ナリ。即チ

外務省

米英兩國ハ此ノ戰爭ニ勝利ヲ占ムルコトニ依リ日本、興隆ヲ抑止スル
「ロンドン」ヲソクソクノ的ニシテ世界秩序ヲ維持シ以テ東亞隸屬化ノ野望ヲ達セ
ハトスルニ在リ。換言スルハ大東亞戰爭ヨリテ米英兩國ノ勝利ニ俾セ
シムルコトヲ許サシムル東亞諸民族諸國家ノ覺醒ト不斷ノ發展ニ
死ヲタヘタル鉅冊ノ内ニ彼等ノ所謂自己流、平和ハ再建サレ富ト
繁榮ハ專ラ彼等ノモノトナルニ反シ、「アジア」諸國家諸民族ハ再
ヒ過去數世紀ノ歴史ヲ繰返シ常ニ其ノ存立ヲ脅威セラレ、其ノ安
定ヲ攪亂セラレ民生其ノ本然ノ姿展ツ永クニ抑壓セラレルニ至ル
ベシ誠ニ米英兩國ノ懷シ世界制覇ノ野望ニソハ世界ノ禍根ト
謂フヘシ。

然ルニ米英兩國ハ自己ノ戰爭目的、晦冥ヲ隱蔽セシカ爲、今次大
東亞戰爭ノ眞ノ意義ヲ殊更ニ曲解シ、或ハ日本ヲ以テ侵略者ナ
リト唱ヘ或ハ独逸ヲ以テ歐洲大戰挑発ノ元凶ナリト呼ビ尾ヒルモ

外務省

一方ニ於テ日独伊三國同盟ニ示サレタル新秩序建設ノ理念殊ニ東
亞ニ於テ帝國主義外交ノ具現ハ彼等ト雖モ否定シ得サレ正義
ノ具現ナルト共ニ、他方ニ於テ彼等ハ大西洋憲章ソ、他戦後ノ
経営ヲ企畫スル一切ノ思想ニ於テ依然トシテ現状維持政策ノ
階ヲ脱シ得ヌ物質文明ヲ背景トスルカヲ以テ世界ヲ君臨ノ体利確
立ヲ企圖シ居トリ。

此故ニ東亞ヲ米英・極權ヨリ解放シテ帝國ノ企圖ニ新秩序
ヲ建設スルニトハ帝國ニ責任スルニ止ラヌ、東亞ニ於テ諸國
家諸氏族ノ共同ノ責務ナリ。而シテ斯カル共同ノ責任ノ觀念ハ
單ニ帝國カ東亞覺醒ノ源泉トシテ場ニ於テ出リ之ヲ包蔵スル
ニ止ラヌ、大東亞ニ於テ各國カ自ラ覺醒シ自ラソノ責任ノ重大性
ヲ悟得シ、以テ大東亞各國カ本然一體トナリ相儕リ相扶ケテ
共同ノ目的達成ニ突進スル本質ヲ具有セリルヘカラス。即チ大東

外務省

亞ノ各國カ全テ日本倒レテ大東亞無ク、大東亞ノ自覺ナクテ日本ノ存
立モ亦脅威セラレギキ古未曾有、重大時局ノ認識ニ徹シ、「アジア
解放」ノ急務ニ態勢ヲ整備強化スルモノナラサルヘカラス、而シ
テ斯カル態勢ノ整備強化トソノ據ヲテ基ク理念タル道義ニ基ク
テ新秩序ハカクトモ理論的ニハ米英、戦多目的ノ急務ヲ衛クモノ
ト認メラルルノミナラス、重慶ノ抗戦名目ヲ根底ヨリ覆滅セシムル
ニ足ルモノト考ヘテ得ヌ。大東亞各公家各氏族各力緒集ノ
要請ハ此故ニ生シ、此故ニ敵ノ總反攻ノ最モ激化シ未ル時ニ於テ最
モ強ク要請セラレルニ至トリ。

帝國政府カ大東亞會議開催ニ妥シ昭和十八年五月十九日大東
亞政府連絡會議決定大東亞政略指導大綱ニ於テソノ方針
ヲ明示シ更ニ十一月二日大東亞(別紙)政府連絡會議了解
トシテ本會議開催ノ時期態容ヲ定メタルハ蓋シ前記ノ趣旨

外務省

(イ) 并補方針案
既定方針ニ據ル

(ロ) 討華方針案
「大正五箇年戦争遂行、為メ并支處理根本方針」ノ徹底具現ヲ圖ル為右ニ即應スル如ク別ニ定ムル所ニ據リ日華基本條約ニ并要ノ改訂ヲ行ヒ要スルハ日華同盟系約ヲ締結ス之ガ為速ニ諸準備ヲ整フ

尚右ニ突撃スル并重慶和平工作ハ己氏政府ヨリ行ハシム本邦兼實実行ノ時機ハ別ニ定ム

ニ對泰方針案
既定方針ニ基キ相互協力ヲ強化ス時ニ「マライ」ニ於ケル失地回復、経済協力強化ハ速ニ実行ス

「シヤニ」地方一部ノ英國領編入ニ関シテハ「ビルマ」トノ關係

外務省

ヲ考慮シテ決定ス

三、對印方針案
既定方針ヲ強化ス

四、對緬方針案
既定方針ヲ実行ス

五、對比方針案
既定方針ニ基キ必ズルニ依リ速ニ獨立セシム

獨立ノ時機ハ概ネ九、十月ノ交ト予定ス

六、其他ノ占領地諸地域ニ對スル方針案ヲ記シ、通シム

(イ) 「マライ」「スマトラ」「ジャワ」「ボルネオ」「セービス」ハ帝冠領土ト決定シ(發表スル)重要資源ノ供給源トシテ極力之ヲ加緊開發シ民心ノ把握ニ努メ各地域原住民ノ民度ニ應ジ努メテ政治ニ参与セシム

外務省

(四)「二十一年」及前項以外、占領地ニ関スルハ別ニ定ム
 (五)前記各地ニ於テハ、当分軍政ニ継承ス
 大東亞會議
 以上各方針、見現ニ伴ヒ本年十月下旬頃大東亞各國ノ
 指導者ヲ東京ニ召集シテ、牢固ナル戦争完遂ノ決意ト
 大東亞共榮圈ノ確立トヲ中外ニ宣明ス

外務省

第三、昭和十八年十月日大東亞政府存立台會議ヲ解「大東亞
 會議ニ就スル件」
 大東亞戦争完遂、為帝國ヲ中核トスル大東亞諸國
 家結集ノ政略勢、更ニ悉滿強化スルノ要トシテ、鐵心
 右政略態勢ノ整備強化ニ資スル為概テ左記要領ニ
 依リ大東亞會議ヲ開催ス

一、参集範圍

帝國

滿洲國

中華民国

タイ國

外務省

「フィリピン」國
 「インドネシア」國
 記、印度臨時政府必立、場合ハ其ノ代表者ヲ^閣席者ト
 トミテ参加セシムルコトアルヘシ

ニ、参集代表ノ構成

帝國 内閣總理大臣(大東亞大臣及外務大臣別當)
 滿洲國 國務總理
 中華民国 行政院院長
 「タイ」國 總理大臣
 「ビルマ」國 總理大臣(國家代表タル者カ行政府ノ
 首^部タル資格ニ於テ)

外務省

「フィリピン」國 大統領 (行政府ノ首^部タル資格ニ於テ)

各國代表ハ全權委任状ヲ所持セス
 各國代表ノ隨員ハ必要最小限ニ止ム

三、時期
 昭和十八年十一月五日ヨリ二日間ト予定ス

四、場所
 東京

五、議題
 戦争完遂ト大東亞建設ノ方針ニ関スル件

外務省

會議ニ於テ審議上中固タル戰爭完遂ノ決意ト大東亞
 共榮圈確立ノ方針トヲ中外ニ闡明ス
 註、一應ノ原案ハ我方ニ於テ用意スルモ事前各國例ノ
 意見ヲモ充分参酌シテ提案スルコト

六、議事日程其他

一、議事日程

第一日 帝國總理大臣挨拶
 議題ニ関スル各國代表所見簡陳

第二日 議案審議及採擇
 帝國總理大臣挨拶

二、用語

日本語ヲ正式用語トス但シ各國代表ノ發言ニ對シテ

外務省

ハ所要ノ翻譯ヲ附ス

三、議事進行、議決

議長ハ全會期ヲ通シ日本國代表ヲ推薦セシム
 議決ハ全會一致トス

四、席次

國名ニ依ルイロハ順トス
 會議ニ關聯ナル行事、席次亦同シ

五、會議ニ関スル發言

議事ハ原則トシテ公開セズ
 發言ハ會議後戒ル可ク速ニ之ヲ行フ

六、招請狀

招請狀ハ十月中旬迄ニ發送スルコトトシ事前非正式ニ内
 意ヲ通達ス

外務省

右招請状ニハ議題トシテ「戦争虎視ト大東亞建設」
方針ニ関スル件トシテ場々各出先大使ヨリテ説明セシム

七、機密保持

発表アル迄極秘トシテ防諜ニ留意セシム

外務省

第三、

大東亞會議開催ニ関スル帝國政府訓令

今般帝國ハ別電第 号ノ要領ニ依リ大東亞會議開催ノ方針
ヲ決定セリ就テハ右別電要領ト共ニ左記諸兵衛兼知ノ上大臣急
本件會議参加方ニ関スル責任國側ノ内意ヲ徴セラレ結果回電
アリ度我方ニ於テハ右結果ヲ俟ツテ改メラ正式ニ招請状ヲ送スル
コト、致度請狀所存トシテ開催期日及準備ノ關係上本月中
旬迄ニハ右招請状發送ノ遅ヒテ致度ニ付前記内意取付ハ即急(遅
ク)トモ本月十日迄)ヲ期待スル次第ナリ
一、前記別電要領昌頭ニ記載セル本會議開催ノ目的ハ我方ノ狙
ヒトシテ政略目的ヲ示シタルモノニシテ右ハ勿論共ノ儘先方ニ
示スヘキモノニアラス貴使限リノ含ミニ止メラレタシ

外務省

先方ニ對スル本會議開催ノ趣旨ニ關スル説明トシテハ別電要領
五、記載ノ本會議議題ト關係シ概ネ「此ノ際大東亞各國ノ政府首
腦者カ會合ニテ戰爭完遂ト大東亞建設ノ方針ニ關シ隔意ナキ
意見ノ交換ヲ遂ケ其ノ協議ノ結果ヲ適當ノ形式ニ依リ中外ニ開明
スルコトハ大東亞各國自身及大東亞全体ノ爲極メテ時宜ニ適スルモ
ト思考セラルトトノ趣旨ヲ以テ適宜説明セラレタシ

ニ、參集國及代表ノ構成ニ關シ

參集國及代表ノ構成ハ別電要領一及ニノ通りト致度殊ニ參
集代表ニ付テハ本件會議ノ意義及其ノ重要性ニ鑑ミ要領記
載ノ政府首腦者カ本人自ラ出席スルコトヲ特ニ重視スル次第方
ナルニ付此莫先方ノ同意取付方極力御盡カアリ度シ
帝國側ハ主權國タル關係モアリ代表タルヘキ總理ノ外大東亞大臣
及外務大臣列席ノ筈ナリ

外務省

隨員ニ付テハ諸般ノ便宜上必要最小限度ニ止ル趣旨ト致度キ
モ具體的員數ニ付テハ各國人々ノ事情モアルヘク要ハ右趣旨ノ下ニ
各國ニ於テ適宜處置セラレタキ考ナリ、尤モ右員數ハ当方準備
ノ都合モアリ成ルヘク早目ニ通報方希望ス
印度臨時政府成立ノ場合其ノ首班ヲ隨席セシムルノ件ハ之カ實現ノ
運ヒニ至ル様致度尤モ參集各國代表ト同資格ニ於テニアラヌ
席者ノ資格ニ於テスルコトヲ考慮シ居レリ
尚會議ノ終末期近ク議案採擇等ノ段階ニ於テ在京樞軸國
代表者ノ隨席ヲ考慮シ居レリ

三、會議期日ニ關シ

會議開催ノ期日ハ本件會議ノ趣旨ニ鑑ミ慎重考慮ノ結
果十一月五日ヨリ二日間トセル次第ナリ參集各國側ニ於テ夫々ノ
都合ハアルヘキモ我方トシテハ右開始期日ハ変更セサルコトト致シ

外務省

度キニ付右御各ノ上先方ノ同意取付方御取計アリタシ
四、議題ニ関シ

議題ニ関シテハ別電要領五、記載ノ通ナルカ採扱議案ノ内容
及形式(共同声明等)ニ付テハ追テ我方草案ヲ前各側ニ
内示シテ各側意見ヲ徴シ會議前略ホ成案ヲ用意ニ置キ
タキ意嚮ナリ但シ條約ノ締結ハ予想シ居ラス(從テ各側代表
ハ全權委任状ヲ所持ヲ要セス)

陳時函羊會議内催前ニ成ルヘク前右連絡打合せ置ラコトト
致度

五、會議不公開ノ原則ニ関シ
會議ハ原則トシテ公開セサルコトスルモ審議終了ノ上最
後ニ議案採扱等ノ場合ハ一定ノ制限ノ下ニ公開スルヲ適當

外務省

思考シ居トリ

六、席次ニ関シ

席次ニ関シテハ別電要領六ノハ記載ノ通國名ニ依リ「イロハ」
順ト致度從來一般ニ欧米等ニ於テハ國際會議ニ於テハ「アル
ファベット」順ニ依ル慣例アルコト御兼知ノ通ナル處本件會議
ニ於テハ右「アルファベット」順ニ代フルニ「イロハ」順ヲ以テスルコトト
適當ト認メタル次第ナリ

七、機密保持ニ関シ

本件ハ敵側ノ妨害介入等ヲ考慮シ嚴ニ極秘裡ニ進ムル
必要アルニ付機密保持ニ付テハ特ニ嚴守方先方ニ注意シ
置カレタシ
爾他ノ事項ニ関シテハ再要ニ應ニ追電スヘシ

外務省

別便
 省略但第二、十月二日大本管政府連絡會議了解
 参照

外務省

第四、招請狀

一、箱号會議招請電訓(案)

往電合第 号ニ関シ

貴使ハ貴任國政府外務大臣ヲ往訪、上帝國政府ノ訓令ニ
 記旨ヲ明ニ別電令中 号ノ趣旨ニ依テ正式招請狀ヲ
 手交相成渡シ

尚隨員ノ員數氏名略相成ルハシ連ニ同様アリ度
 追テ本件會議ノ隱語ヲ我方内部ノ取扱トシテハ
 箱号トシ居ニ付御含迄

外務省

別電令第 號

大日本帝國政府ハ貴國政府ニ付シ大東亞各國即チ貴國、中華
民國、泰國、古々(当該國ヲ筆頭トシ他ハイ、ロ、ハ、順トス)ノ代表
ノ参列スハキ會議ノ開催ヲ允記ニシテ提議ムルト共ニ友國政府
代表トシテ〇〇閣下、出席ヲ招請スルノ光榮ヲ有ス

一、大日本帝國政府ハ此ノ際大東亞各國ノ政府代表ニ関シ隔意ナ
キ意見ノ交換ヲ欲シ其ノ協議ノ結果ヲ適當ノ形式ニ依リ中
外ニ宣明スルニ付大東亞各國自身及大東亞全体ノ爲極メテ
時宜ニ適ムルモノト確信ス

外務省

二、大日本帝國政府ハ本會議ヲ大東亞會議ト呼称シ昭和十八年
(中華民國何年)年季ト各國別ニ併記ス(十一月五日ヨリ二日間
東京ニ於テ開催スヘキニ付提議ス

三、大日本帝國政府ハ本會議ヲ大東亞會議ノ議題トシテ大
東亞戰爭完遂ト大東亞建設ノ方針ニ関スル件ヲ提議ス
右議題ニ関シテハ必要ニ應ジ貴國駐劄大日本帝國特
命全權大使ヲシテ臨時帝國政府ノ詳細ナル意旨ヲ連
給セシムヘシ

四、大日本帝國政府ヨリハ本會議ニ代表トシテ東條内閣総理
大臣出席スル外青木大東亞大臣及重光外務大臣列席
スヘシ

大日本帝國政府ハ貴國政府カ銜叙上帝國政府ノ提議
ヲ謙蒙セシレ本招請ヲ受諾セラハムコトヲ希望ス

外務省

第五、大東亞會議事務局

(一) 大東亞會議事務局構成

一、大東亞會議事務局ハ各國代表、隨員各ニ名及必要ナル補助係官ヲ以テ組織ス

二、大東亞會議事務局ハ第一回、會合トシテ十一月三日午前十時

帝國議會議事堂ニ於テ開催ス

三、右會合ニ於テ左記事項ニ付打合ヲ行フ

(イ) 議事日程細目

(ロ) 各國代表議說草案

(ハ) 大東亞會議宣言案

(ニ) 第二日午前中ニ於テハ各國代表發言要旨

(ホ) 發表ニ関スル事項

(ヘ) 議場使用ニ関スル事項

外務省

(ト) 其他必要ナル事項

外務省

(六) 大東亞會議事務局員名簿
日本團

大東亞省 総務局長 竹内 新平 閣下
外務省 政務局長 上村 伸一 閣下
中華民國

國民政府 行政院 秘書長 周 隆 閣下
國民政府 行政院 副秘書長 薛 逢 元 閣下

タイ國

外務省 東方政務局長 ウィムート、アニタニク 閣下
外務省 一等書記官 ウオニサマワット、ラワクニ 閣下

滿洲國

外交部 政務司長 大江 晃 閣下
外交部 理事官 鄭 噴 散 氏

外務省

フィリピン國

秘書長 ホセ、ベ、ラウレル 氏

ビルマ國

外務次官 ウー、エ、エ、ホウ 閣下

外務省

(三) 十一月三日事務局會議ニ於ケル打合事項

一、第一日議長推薦ノ際、「タイ」國代表ハ日本國代表任命ノ
勸議ヲ提出スベシ

二、「フィリピン」國代表ハ上記勸議ニ賛成スベシ

三、議案採決直後滿洲國代表ハ將來ニ於ケル同様ノ會議ノ
召集ニ對スル希望ヲ表明スベシ

四、滿洲國代表ニ依ル前記陳述ニ引續キ「ビルマ」國代表ハ自
由印度假政府ニ支援ヲ與フベキ旨ノ發言ヲ行フベシ

五、「ビルマ」國代表ニ引續キ自由印度假政府首班ハ發言ノ
機會ヲ與ヘラレベシ

六、閉會挨拶ニ次リ中華民國代表ハ議長ニ對シ感謝ノ辞ヲ
述フベシ

外務省

第六、大東亞會議ノ開催

一、會議ノ次第

一、既ニ第一項ニ於テ述ヘタル如ク大東亞ノ諸國カ古クヨリ國ヲ成スト雖
又新興國家トシテ誕生セルモノトシテ向テ各々其ノ所ヲ得相倚リ
相扶ケテ共存共栄ノ秩序ヲ建設セントスル東亞覺醒ノ歴史的
展開ハ今ヤ亞細亞黎明ノ一大現實トナリツアリ。然レニ米英ハ
大東亞ニ對スル非望ヲ飽ク迄維持達成セントスルヲ迷夢ヨリ
醒メス、其ノ誇示スル物的戰力ヲ恃ミテ執拗ナル反攻ヲ繰返
シ戰局ノ前途ハ逐次重要ナル段階ニ到達スルニ至レリ大東亞
會議ハ寧ニ以上ノ如キ情勢ノ下ニ昭和十八年十一月五日六日兩
日ニ互リ東京ニ於テ開催セラレタルモノナリ。
今其ノ會議次第ヨリニ次ノ如シ。

外務省

(1) 各國代表及列席者
日本國

代表	內閣總理大臣	東條 英機	閣下
海軍	大臣	嶋田 繁太郎	閣下
大東亞	大臣	青木 一男	閣下
外務	大臣	重光 葵	閣下
內閣書記官長		星 野 直樹	閣下
情報局 總裁		天 羽 英二	閣下
外務 次官		松 本 俊一	閣下
大東亞 次官		山 本 龍一	閣下
大東亞 政務局長		上 林 伸一	閣下
陸軍省 軍務局長		佐 藤 賢了	閣下
海軍省 軍務局長		岡 敬純	閣下

外務省

大東亞省 總務局長 竹内 新平 閣下

中華民國

代表

國民政府行政院長	江 精 街	閣下
國民政府行政院副院長	周 佛 海	閣下
國民政府外交部長	褚 民 誼	閣下
國民政府軍事委員會委員長	陳 昌 祖	閣下
國民政府行政院秘書長	周 蔭 昌	閣下
國民政府行政院副秘書長	薛 逢 元	閣下

外務省

内閣總理大臣秘書
ウー、ニニン、ハン
内閣總理大臣秘書
ホー、ヤン、ナ
内閣總理大臣秘書
ホー、ヤン、ナ
尚大陪席者トシテ自由印度政府トホー、ニ首班閣下列席
セリ

外務省

(四) 議題
戰爭完遂ト大東亞建設ノ方針ニ関スル件

(一) 議事日程
第一日 (十一月五日 金曜日)

開會
議長推薦
各國代表ノ一般的所見向陳

第二日
議案審議
日本國代表挨拶
閉會

外務省



二、大東亞共同宣言ノ採択

右會議次方ニ於テ明ナル如ク大東亞ニ國ヲ為ス各國代表者一堂ニ會シテ大東亞戦争ノ完遂ト大東亞建設ノ方針ニ関シ隔意無キ懷議ヲ遂ケ以テ一致セル信念ト自覚ノ下ニ相悞同シテ本戦争ノ完遂ト東亞新秩序ノ建設ニ邁進センコトヲ期シタル本會議ハ史上屢々其ノ例ヲ見タル如キモソ利己的利害打算ニ基キ、戦後、介前ノ多少ヲ論議スル如キモノ非ス、或ハ國際聯盟、如ク各國平等ノ偽装ノ下ニ、強國ノ之ヲ繁榮ト福祉ヲ増進セシカ為メ會議ニモ非ス、即チ大東亞戦争ノ完遂ト大東亞建設ノ方針ニ関シ各國カ抱懷セル抱負ト信念ト何等ノ抱束ヲモ受ケス、最モ折解ケタル零回氣ノ下ニ自由ニ表明シ、各國ノ共同ノ使命達成ニ資セントスルヲ目的トシタルモノナリ。斯クテ隔意無キ意見

外務省

交換ハ關係各國ノ大東亞戦争完遂ノ決意並ニ大東亞建設ノ方針進テハ世界進運ノ貢獻ニ對スル理想ト熱意トカ其ノ根本ニ於テ完全ニ一致セルコトカ相互ニ確認セラレ、各國カ益々相信ニ相和シ相倚リ相扶ケテ其ノ共同ノ理想及共通ノ使命達成ニ向テ邁進スルノ決意ト確信ヲ新ニスルコトヲ得タルカ、大東亞共同宣言ハ正ニ斯カル共通ノ信念ト見解ト、顯シカ各國代表ニ依リ萬場一致採択セラレタルモノニシテ、其ノ意義、真ニ大ナルモノナリト言ハサルヘカラス、
右大東亞共同宣言採擇ニ付キ大東亞會議事務局ハ次ノ如キ發表ヲ行ヒタリ。

外務省

大東亞會議事務局發表

昭和十八年十一月五日及六日、兩日東京ニ於テ大東亞會議ヲ開催セリ同會議ニ出席、各國代表者左ノ通り

日本國

内閣總理大臣 東條 英機閣下

中華民國

國民政府行政院長 江北 鈺閣下

「イ」國

内閣總理大臣「ロ」・「ビ」・「ソ」・「ク」・「ム」元帥閣下、各代トモテ
「ワ」・「イ」・「タ」・「ヤ」・「コ」・「シ」閣下

滿洲國

國務總理大臣 張 景惠閣下

外務省

「フ」イリビニ「共和國

大統領 「ホセ・ベ・ラウレル」閣下

「ブル」マ

内閣總理大臣「バリ・モウ」閣下

同會議ニ於テ大東亞戰爭完遂ト大東亞建設ノ方針トニ因テ各國代表ハ隔意ナキ協議ヲ遂ゲタル處全會一致ヲ以テ左ノ共同宣言ヲ採択セリ

大東亞共同宣言

抑々世界各國が其ノ所ヲ得相倚リ相扶ケテ萬邦共榮ノ樂ヲ偕ニスルハ世界平和確立ノ根本要義ナリ

然ルニ米英ハ自國ノ繁榮ノ為ニ他國家他民族ヲ抑圧シ特ニ大東亞ニ對シテ、飽クナキ侵略擄取ヲ行ヒ大東亞隸屬化ノ野望ヲ逞ウシ遂ニ大東亞ノ安定ヲ根柢ヨリ西獲サントセリ大東亞戰爭ノ原因茲ニ存ス

大東亞各國ハ相提携シテ大東亞戰爭ヲ完遂シ大東亞ヲ米英ノ桎梏ヨリ解放

外務省

シテ其ノ自存自衛ヲ全ウシテ、綱領ニ基キ大東亞ヲ建設シ以テ世界ノ平和ノ確立ニ寄與センコトヲ期ス

一、大東亞各國ハ協同シテ大東亞ノ安定ヲ確保シ道義ニ基キ共存共栄ノ秩序ヲ建設ス

一、大東亞各國ハ相互ニ自主獨立ヲ尊重シ互助敦睦ノ實ヲ舉ゲ大東亞ノ親和ヲ確立ス

一、大東亞各國ハ相互ニ傳統ヲ尊重シ各民族ノ創造性ヲ伸張シ大東亞ノ文化ヲ昂揚ス

一、大東亞各國ハ互恵ノ下緊密ニ提携シ其ノ經濟發展ヲ圖リ大東亞ノ繁榮ヲ増進ス

一、大東亞各國ハ萬邦トノ交誼ヲ篤ウシ人種的差別ヲ撤廢シ並ク文化ヲ交流シ進ニテ資源ヲ開放シ以テ世界ノ進運ニ貢獻ス

今其ノ共同宣言ノ内容ヲ概略スルハ左ノ如シ

外務省

一、宣言案ノ骨子

本共同宣言ノ構成ノ概略ニ付テ之ヲ述ブルハ、先ツ第一段ニ於テ世界ノ平和確立ノ根本要義ヲ掲ケ、第二段ニ於テ大東亞戦争ノ原因ヲ指摘シ、第三段ニ於テ戦争完了後ト大東亞建設ノ決意ヲ示シ、第四段ニ於テ大東亞建設ノ綱領ヲ掲ケタリ。

綱領ニ於テハ第一項ニ共存共栄ノ原則第二項ニ獨立親和ノ原則第三項ニ文化昂揚ノ原則第四項ニ經濟繁榮ノ原則第五項ニ世界進運ノ原則、原則ヲ証ヒ、而シテ第一項ハ大東亞建設ノ大本ヲ示シ、第二項乃至第四項ハ大東亞各國相互間ノ關係ヲ証ヒ、第五項ハ大東亞、大東亞以外ノ諸國ニ対スル關係ヲ明カニセリ。

以上宣言ノ粗ヒトスル所ハ今次戦争ノ正義性ヲ認識セシメ、大東亞ニ於ケル血縁的関係ニ於テ共同ノ運命觀ヲ啓培シ、大東亞ノ結集ニ資スルト共ニ重慶ノ反省ヲ促シ、併セラ米英ニ対スル政治攻勢ノ具々

外務省

ラニメントスニ在リ。從テ措辞半ニ付テモ右考慮ヨリ特別ノ注意
ヲ拂ヒタリ。尚ホ本宣言ノ作成ニ當リ門戸閉鎖ノ感ヲ与ヘサル様留
意スルト共ニ對テ蘇蘭關係ニモ考慮セリ。

ニ各説

(一) 第一段ニ於テハ世界各國カ各々其ノ所ヲ得テ、相倚リ相扶ケテ万邦英
榮ノ樂ヲ俱ニスルコトカ、世界平和確立ノ根本要義ナリ所以ヲ明カナ
ラシメタリ。

(二) 第二段ニ於テハ世界平和確立ノ根本要義カ右ノ如クナルニ拘ラス、米英
ハ自國ノ繁榮ノ爲ニハ敢テ他國家他民族ヲ抑圧スルモ觀ミサル、利
己的独善的世界制覇ノ政策ヲ實施シ来リ、特ニ大東亞ニ對シテハ
飽クナク侵略搾取ヲ行ヒ大東亞隸屬化ノ野望ヲ逞シラシ、遂ニハ
大東亞ノ安定ヲ根柢ヨリ覆サントスルニ至リ、歴史的事實ヲ究明
シ、大東亞戦争ノ原因ヲ明カナラシメタリ。

外務省

(三) 第三段ニ於テハ大東亞各國ハ斯クノ如ク動因ニ依リ發生セル大東亞
戦争ノ本質ヲ認識シ、相提携シテ大東亞戦争ヲ完遂シ大東亞
ヲ米英ノ極權ヨリ解放シテ其ノ自存自衛ヲ全シ、以下第四段ニ
示ヌ如ク大東亞建設ノ綱領ニ基キ大東亞ヲ建設シ、以テ世界平和
確立ニ寄与セントスルノ決意ヲ明カナラシメタリ。

(四) 第四段ノ建設綱領ノ内容ハ

本ヲ示サントセリ、即チ大東亞ノ各國カ以テ是ニ於テ誰レ難キ緊
密ナル關係ヲ育ムルコトハ否定シ得サル事實ニシテ、斯カル關係ニ
立ツ大東亞ノ各國カ共同ニテ大東亞ノ安定ヲ確保シ共存共栄ノ
秩序ヲ建設スルコトハ各國共同ノ使命ニシテ、世界平和確立ノ最
モ有効且實際的ナル方途ナルベキ所以ヲ明カナラシメタリ。而シテ
大東亞ニ於テル共存共栄ノ秩序大東亞固有ノ道義的精神ニ基

外務省

クモノニシテ、此ノ莫自己ノ繁榮ノ爲ニハ不正、欺瞞、搾取ヲ辭
セサル米英本位ノ舊秩序ト根本的ニ異ル所以ヲ明カニセリ。

(四) 獨立親和ノ原則

本原則ニ於テハ大東亞ノ各國ハ互ニ其ノ自主獨立ヲ尊重シ、
互助敦睦ノ實ヲ舉テ全体トシテ親和ノ姿係ヲ確立セシメテ
ソ期スルモノナルカ親和ノ關係ハ相手方ヲ單ニ手敵トシテ利用スルコ
トナク、鉅遠モ相手方ノ自主獨立ヲ尊重シ、他ノ繁榮ヲ助ケルコ
トニ依リテ自ラモ繁榮シ、自他共ニ本末ノ面目ヲ發揮スル所ニシ
テ生シ得ヘキ所以ヲ明カナラシメシム。

(三) 文化昂揚ノ原則

由來大東亞ニハ優劣ナル文化存在シ殊ニ大東亞ノ精神文化ハ最
モ崇高幽玄ナルモノナリシモノナリ、大東亞各國カ其ノ本然ノ
精神文化ヲ長養醇化シテ、之ヲ廣ク世界ニ及ボスコトハ物質

外務省

文明ノ行詰リヲ打斷シ、人類全般ノ福祉増進ニ寄与スヘキハ明
ナル所ナリ。即チ本原則ハ斯カル文化ヲ有スル大東亞ノ各國カ互ニ
其ノ光輝ナル傳統ヲ尊重スルト共ニ久シキニ亘ル米英、柳正ニ依リ
波瀾ヲ重ネタル各民族ノ創造性ヲ回復伸揚シ、以テ大東亞ノ文
化ヲ益々昂揚スヘキコトヲ明カナラシメタリ。

(二) 經濟繁榮ノ原則

大東亞ハ多年米英ノ搾取ノ對象トナリ、固有ノ經濟力ヲ
自己ノ本然ノ發展ニ寄与セシムルヲ得サレナリ。大東亞ノ復興
及隆ヲ期セントセハ、經濟的ニモ亦其ノ自主性ヲ回復シ相倚
リ相扶ケテ其ノ繁榮ヲ期スルコト必由ニシテ、即チ大東亞ノ各
國ハ民生ノ向上ト國力ノ充實ヲ圖ルニ爲シ互惠ノ下緊密ナル提携ヲ
行ヒ共同シテ大東亞ノ繁榮ヲ増進スヘキモノナルコトヲ明カニセリ。

外務省

(六) 世界進運ニ貢献ノ原則

斯クノ如クニテ建設セラルヘキ大東亞ノ新秩序ハ排他的獨
善的ノモノニ非スニテ、廣ク世界各國トノ間ニ政治的ニ經濟
的ニモ將又文化的ニモ積極的ニ協力ノ關係ニ立ツヘキコ
其ノ本質トスルモノニテ、即チ大東亞各國ハ万邦トノ交誼ヲ
篤ウシ、人種的差別ヲ撤廢シ、普ク文化ヲ交流シ、進
テ資源ヲ開放シ、以テ世界ノ進運ニ貢献スヘキモノナルコ
明ナラシメ、此ノ莫ク自由平等ヲ唱ヘツツ他國家他民族
ニ對シテ抑圧ト差別トヲ以テ曲メ、他ニ門戸開放ヲ強ヒツツ
自ラハ尠ナル土地ト資源トヲ壟斷シ他ノ生存ヲ脅威ニシテ
顧ミヌ世界全般ノ進運ヲ阻碍シ来ルニ米英ノ舊秩序ト
其ノ本質ニ於テ全ク趣ヲ異ニセル所以ヲ明カナラシメタリ。

外務省

三、會議ニ於ケル日本國代表挨拶各國代表所見及發言

一、日本國代表東條内閣總理大臣閣下ノ挨拶及所見

(十一月五日)

本代表ヨリ、主權國ト致シマシテノ御挨拶ヲ曰述ベ、併セテ帝國政
府ノ所見ヲ開陳致シタウト存スルノテアリマス。

大東亞戰爭完遂ト大東亞新秩序建設ノ方針ニ關シテ閣下ノ
ナキ協議ヲ遂グルニ爲、今般大東亞會議開催方ヲ提議致シマシタ
ル處、幸ヒ關係各國ノ衷心ヨリ、御覽、同ヲ得マシテ、茲ニ大東亞
各國代表トシテ各閣下ノ御參集ヲ見マシタルコトハ、主權國ト致シ
マシテ最モ欣幸トシ、又深く感謝ノ意ヲ表スル所ニアリマス、尚御
末期中ノ自由印度假政府首班閣下ノ御蒞席ヲ得マシタルコトハ、是
亦洵ニ欣幸ト存スル所デアリマス。

惟フニ英帝國ハ、過去數世紀ニ互リ侵略ト征服トニ依ツテ、全地

外務省

球上ニ廣大ナル領土ヲ獲得シ、而シテ其ノ優越的地位ヲ飽ク迄モ維持セ
 ントシテ、世界各地ニ於テ他國ヲシテ相互ニ対立抗争セシメテ其ノテアリ
 マス、他方米國ハ、歐洲ノ動乱常ナキ情勢ニ乘ジテ、米大陸ニ覇権ヲ確立
 スニ止マラズ、概ネ米西戦争ヲ契機ト改レマシテ、太平洋及ヒ亞細亞
 ニ爪牙ヲ伸ハスニ至リ、遂ニオ一次世界大戦争ヲ契機ト改レマシテ、英帝
 國ト共ニ世界制覇ノ野望ヲ逞シクシテ其ノテアリマス、而シテ今次ノ
 世界大戦争勃発後ニ於キマシテハ、米國ハ更ニ飛躍シテ、北「アフリカ」西
 「アフリカ」大西洋、濠洲、近東、進んで印度方面ニ對シマシテモ、遂次其ノ
 魔手ヲ伸ハシ、英帝國ノ地位ニ取ツテ代ニシテ居ルノテアリマス、
 米英ノ平素唱道改シマシテ國際正義ノ確立ト世界平和ノ保障トハ、
 畢竟歐洲ニ於キマスレ諸國モ亦今分裂抗争ノ動長ト、亞細亞ニ於ケル植民
 地的搾取ノ永續化トニ依リ、利己的秩序ノ維持ニ外ナラナイノテアリ
 マス、而シテ亞細亞ニ於ケル米英ノ進取方ヲ見マスレ、彼等ハ政治的ニ

外務省

侵略シ、経済的ニ搾取シ、更ニ教育文化ノ美名ニ匿レテ民族性ヲ喪失セ
 シメ、相互ニ相衝突セシメテ、其ノ非望ノ達成ヲ圖ツタノテアリマス、斯
 クテ亞細亞ノ諸國家諸民族ハ、常ニ其ノ存立ヲ脅威セラレ、其ノ安定
 ヲ攪乱セラレ、民生ハ其ノ本然ノ發展ヲ抑圧セラレテ今日に至リテア
 リマス、彼等ノ呼号スル門戶開放、機會均等主義モ、東亞ヲ植民地
 視スル根本觀念ニ奉シタルモノデアリマシテ、實ハ彼等が東亞侵略ノ
 非望ヲ遂ゲンガ為ノ便宜手段ニ過ギナイノデアリマス、彼等ハ自國ノ領
 土内ニ於テハ、東亞ノ諸民族ニ對シテ常ニ門戶ヲ閉鎖シ、機會ヲ不均等
 ナラシメ、交易ヲ阻碍シテ、只管彼等ノ利己的欲求ヲ追及
 レタノデアリマス。
 洵ニ米英西國ノ懷ク世界制覇ノ野望コソハ、人類ノ災厄世界
 ノ禍根ト謂フベキデアリマス。
 願ミレバ東亞ノ諸國家諸民族ノ間ニ於テ、解放ノ義舉ノ起ツ

外務省

ヲトハ、一再ニ止マラナカクテアリマルガ、或ハ米英ノ暴兵飽クナキ武
カ酌彈圧ニ依リ、或ハ彼等ノ異民族統御ノ常套手段テアル所ノ
悪辣極マル離間策ニ依リ、多クハ失敗ニ歸シタリテアリマス、此ノ間
ニ在リテ日本ノ興隆ハ米英ニ取リマシテハ最も好マシカラザレモノト
ナツタノデアリマス、茲ニ於キマシテカ、彼等ハ、一方ニ於テ事毎ニ日本抑
圧ノ態度ニ出ツルト共ニ、他方ニ於キマシテハ日本ト東亜ニ於ケル他
ノ諸國家諸民族トノ離間ヲ策スルコトヲ以テ、彼等ノ東亜政略ノ
要諦トスルニ至ツタノデアリマス、蓋シ東亜ノ隸屬化ヲ維持スル
為ニハ、東亜ニ於テ何レカノ國が強國トシテ勃興致シマスルコトモ、又
東亜ノ諸國家諸民族ノ團結スルコトモ、彼等ニ取リ、其ノ最も
不利トスル所デアルカラデアリマス、而シテ斯クノ如キ米英ノ東亜
隸屬化ノ野望ハ、特ニ最近數年間ニ於テ愈々、露骨トナツ
テ參ツタノデアリマス、即チ將政權ヲ使喚シテ、日華兩國ノ國交

外務省

ヲ阻碍シ、其ノ極、遂ニ不幸ナル事變ヲ勃發ニ至ラシメ、之ガ解
決ニ對シテモ有ラユル手段ヲモテシテ其ノ妨礙ヲ策シタノデアリマス、
而シテ今テ次歐洲戰事勃發後ニ於キマシテハ、戰爭ノ必要ニ藉クシ
テ平和的通商ヲ妨礙シ、更ニ進ニテ其ノ本質ニ於テ戰爭ト異ナラザ
ル所ノ經濟斷交ノ手段ニ趨ク、他面東亜ノ周辺ニ於テ武備ヲ増強シ、
以テ我ニ屈從ヲ強ヒント試ミ、東亜ノ安定ハ根柢ヨリ重大ナル脅威ヲ
受クルニ至ツタノデアリマス、斯クノ如キ米英ノ態度ニ拘ラズ、帝國ハ
只管禍亂ノ東亜ノ天地ニ波及スルコトヲ避ケンテ欲シマシテ、隱忍
自重、最後迄平和的交渉ニ依ツテ時局ノ收拾ヲ圖ツテ參ツタノデアリ
マス、然ルニ米英ハ、何等及省互讓ノ態度ニ出デズ、却テ益々、強
ト壓迫トヲ強化シテ、帝國ノ存立ヲ危殆ニ瀕セシメタノデアリマス、帝
國ハ遂ニ自存自衛ノ為、蹶然起ツテ東亜ニ對スル挑戰ニ応ズルノ已
ムナキニ至リ、茲ニ一切ノ障礙ヲ破碎シテ、東亜永遠ノ平和確立ノ為

外務省

國運ヲ賭シテ征戰ニ邁進スルコトナツタリデアリ。
 大東亜戦争開始セラレマスルヤ、帝國陸海軍ハ、善謀勇戰、甫戦后
 半歳ナラズシテ克ク東亜ノ全域ヨリ米英ノ侵略勢カヲ驅逐掃蕩
 致シタリデアリマス、大東亜各國ハ、或ハ宣戰ヲ布告シテ共ニ戰ヒ、或ハ緊密
 密ニ戰爭完遂ニ懽カシツ、アリマシテ、今ヤ大東亜諸民族ノ自覺ト熱
 情トハ澎湃トシテ大東亜ノ天地ニ漲リ、内ニ於キマシテハ各國相信シ
 相知シ、外ニ對シマシテハ米英ノ及攻ヲ擊摧シテ、自存自衛ヲ全ウシ、以
 テ大東亜永遠ノ安定ヲ確立スルヲ為、勇躍邁進シツ、アルデアリマス。
 惟フニ、今次ノ戰爭ハ大東亜ノ全民族ニ取リマシテハ實ニ其ノ興廢ノ
 岐ル一大決戰デアリマス、此ノ戰ニ勝チ抜クコトニ依リマシテ、始メテ大
 東亜ノ諸民族ハ、永遠ニ其ノ存立ヲ大東亜ノ天地ニ確保シテ、共榮
 ノ樂ヲ偕ニ致シマスルコトが出来ルデアリマス、洵ニ大東亜戦争ノ完
 遂コソ大東亜新秩序建設ノ確立ヲ意味スルモノデアリマス、素ヨリ

外務省

米英ハ、其ノ恃ミトスル物價的戰力ヲ拏ゲテ大東亜ニ反攻ヲ繰返スコトハ当然
 デアリマス、大東亜ノ諸國亦ハ、其ノ全カヲ尽シテ之ヲ徹底的ニ破碎シ、更ニ
 彼等ニ痛撃ヲ加ヘ、以テ戰爭ヲ完遂シテ、大東亜永遠ノ安定ヲ確保
 シナクバナラナイデアリマス、此ノ秋ニ當リマシテ、帝國ハ總戰ニ獲得
 セル戰路的優位ニ立ツテ、雄渾ナル作戰ヲ續行シテ居ルデアリマス、而シ
 テ国内ニ於キマシテハ此ノ雄渾ナル作戰ニ呼応致シマシテ、愈々国内能ハ
 勢ヲ整備シ、特ニ最近之ガ決戰化ヲ圖リ、眞ニ億一心、必勝ノ確信ノ下ニ
 強靱ナル闘志ヲ以テ、飽ク迄モ此ノ大戦争完遂ニ邁進致シテ居ルデア
 リマス。
 茲ニ各位ニ依ツテ代表セラレマスル所ノ大東亜諸國モ亦帝國ト同聲志シ、
 其ノ全カヲ拏ゲテ宿敵米英ノ反抗ヲ擊摧シ、以テ大東亜永遠ノ安定
 ヲ圖ラントスル決意ノ鞏固ナルモノアルコトヲ私ハ確信スルモノデアリ
 マス。

外務省

次ニ大東亜ノ建設ニ関スル帝國政府ノ基本的見解ヲ申述ベシト存ジマス。

抑、世界各国ガ各、其ノ所ヲ得、相倚リ相扶ケテ、万邦共栄ノ泉ヲ偕ニ致シマスルハ、世界平和確立ノ根本要義デアルト信ズルデアリマス、而シテ特ニ關係深キ諸國ガ互ニ相扶ケテ各自ノ國礎ニ培ヒ、共存共栄ノ紐帶ヲ結成スルト共ニ、他ノ地域ノ諸國家トノ間ニ協和偕衆ノ關係ヲ設定致シマスルコトハ、世界平和確立ノ最も有效ニシテ且實際的方途デアルト申サネバナラヌト存ズルデアリマス。

大東亜ノ各國ガ、有ラユル長ニ於テ離レ難キ緊密ナル關係ヲ有シマスルコトハ、否定シ得ガレテ事實デアリマシテ、斯カル關係ニ立ツテ、大東亜ノ各國ガ協同シテ大東亜ノ安定ヲ確保シ、共存共栄ノ秩序ヲ建設致シマスルコトハ、各國共同ノ使命デアルト確信スルデアリマス。

外務省

大東亜ニ於ケル共存共栄ノ秩序ハ、大東亜固有ノ道義的精神ニ基クベキモノデアリマシテ、此ノ實ニ於テ、自己ノ繁栄ノ為ニハ不正、欺瞞、搾取ヲモ敢テ許セザル英本位ノ旧秩序トハ、根本的ニ異ナルモノデアリマス、大東亜各國ハ互ニ其ノ自主独立ヲ尊重シツ、全体トシテ親和ノ關係ヲ確立スベキモノデアリマス、相手方ヲ單ニ手段トシテ利用スル所ニハ親和ノ關係ヲ見出スコトハ出まナクデアリマス、親和ノ關係ハ、相手方ノ自主独立ヲ尊重シ、他ノ繁栄ニ依ツテ自ラモ繁栄シ、自他共ニ其ノ本来ノ面目ヲ發揮スル所ニノミ生シ得ルモノト信ズルデアリマス。

由來大東亜ニハ優秀ナル文化ガ存シテ居ルデアリマス、殊ニ大東亜ノ精神文化ハ、最も崇高、幽玄ナルモノデアリマス、今更ニ之ヲ長養醇化シテ廣ク世界ニ及ボスコトハ、物質文明ノ行詰リヲ打開シ、人類全般ノ福祉ニ寄与スルコト勘カラザルモノデアリト信ズルデアリマス、斯カル文化ヲ有シマスル各國ハ、相互ニ其ノ光輝アル傳統ヲ尊重致シマ

外務省

スルト共ニ、各民族ノ創造性ヲ伸暢シ、以テ大東亜ノ文化ヲ益ミ昂揚セ
ネバナラヌトキフルデアリマス。

一更ニ大東亜ノ各国ハ、民生ノ向上、国力ノ充実ヲ図ル為、互恵ノ下ニ緊
密ナル経済提携ヲ行ヒ、協同シテ大東亜ノ繁栄ヲ増進スベキモノト
信ズルデアリマス、大東亜ハ米英多年ノ搾取ノ対象トナツテ来タリ
デアリマスルガ、今后ハ経済的ニ自主独立、相倚リ相扶ケテ其ノ繁栄
ヲ期サナケレバナラヌト思フデアリマス。

斯クノ如クミレテ建設セラルベキ大東亜ノ新秩序ハ、排他的ノモノデ
ハナク、廣ク世界各國トノ間ニ、政治的ニモ、経済的ニモ、特又文化的ニモ
積極的ニ協力ノ關係ニ立チ、以テ世界ノ進運ニ貢献スベキモノデアリマ
ス、口ニ自由平等ヲ唱ヘツ、他國家、他民族ニ対シ抑圧ト差別トヲ
以テ臨ミ、他ノ生存ヲ脅威シテ顧ミズ、世界全般ノ進運ヲ阻碍
壟斷シ、他ノ生存ヲ脅威シテ顧ミズ、世界全般ノ進運ヲ阻碍

外務省

シテ来マシタ米英從來ノ遣リカトハ全ク趣ヲ異ニシテ居ルデアリマ
ス。

道義ニ基ク大東亜ノ新建設ハ、現ニ戦塵ノ眞只中ニ在ツテ着
着トシテ實現ヲ見ツ、アルデアリマス、然ルニ米英側ノ印度ニ対シ
マスル進運リロハ果シテ如何デアリマセウカ、今テヤ英國ノ彈圧ハ、日ニ
月ニ其ノ度ヲ加ヘ、又最近ニ於テハ米國ノ野望モ加ハリ、彼等ト印
度民衆ト、軋轢乖離ハ愈々激化シ、印度四億ノ民衆ハ言語ニ
絶スル苦惱ヲ続ケテ居ルデアリマス、特ニ最近之ニ依ツテ招来セラレ
タル空前ノ飢饉ハ、米英自ラモ之ヲ認ムル所デアリマス。

斯クテ印度ニ於キマシテハ志アル者ハ悉ク牢獄ニ投ゼラレ、無辜ナ
民衆ハ總テ飢エニ泣イテ居ルデアリマス、是正ニ世界ノ悲劇テ
アリ、人類共同ノ痛恨事デアリ、義憤ニ燃ユル我々大東亜民族ノ
断ジテ放置シ得ザル所デアリマス、時ナル哉、「スバス・ナヤンドラ

外務省

ボース氏ノ蹶起スルアリ、之ニ呼応シテ内外ノ印度人ハ起ナニリ、茲ニ
 印度假政府ノ樹立ヲ見、印度独立ノ基礎ハ現ニ成ツタノデアリマス、帝
 國ハ曩ニ印度独立ノ為、有ニル協カト支援トヲ致スベキコトヲ中外ノ圍
 明致シテデアリマス、大東亞ノ諸國家モ亦齊シク印度独立ノ完成
 為、心カラナル協カヲ寄セラルコトヲ私ハ確信致スモノデアリマス、米
 英ガ所謂大西洋憲章ニ依ツテ標榜セル所ト、現ニ印度ニ對シテ實
 際ニ執リワケアリキ矣トテ、彼等ハ如何ナル論理ニ依ツテカ之ヲ調和
 セントスルモ、ソレハ不可能ノ事デアルト存ズレノデアリマス、併シテ
 ガラ吾人ハ今更彼等ノ矛盾ヲ見テ驚愕クモノデアリマス、全
 世界ノ人々ハ今日迄米英ノ表面ニ掲グレ美シキ看板ト、其ノ肚裏
 ニ包藏スルモノトノ矛盾ヲ、余リモモ多ク見セツケラレ、欺瞞ト偽裝ト
 逆彩コソ、彼等米英ノ本性デアルトコトヲ已ニ熟知致シテ居レノデ
 アリマス、彼等敵側ノ為ス所ガ如何ナルモノデアリスセヨ、帝國ハ大

外務省

東亞各國ト相携ヘテ天地ノ公道ヲ歩ミ、大東亞ヲ米英ノ桎梏ヨリ
 解放シ、大東亞各國ト協同シテ大東亞ノ復興、興隆ヲ図ランコトヲ
 期スルノミデアリマス、今ヤ大東亞諸國家諸民族ノ結合ホハ成リ、
 万邦共栄ノ理想ニ向ツテ大東亞新建設ノ巨歩ハ堂々弁足シタノ
 デアリマス。
 纏ツテ歐洲ノ情勢ヲ見マスルニ、盟邦独逸ハ愈々國民的結束ヲ鞏
 固ニシ、必勝ノ信念ヲ以テ米英數手滅ト歐洲建設トニ邁進シツ、アリマ
 シテ、洵ニ力強キ限リデアリマス。
 大東亞戰爭ハ實ニ破邪顯正ノ聖戰デアリマシテ、大義名分炳乎
 トシテ我ニ在リ、正義ノ向フ所敵無ク、究極ノ勝利ノ我ニ歸スベキコ
 トハ我等ノ信シテ疑ハザル所デアリマス。
 茲ニ大東亞諸國ガ衷心ヨリ大東亞戰爭ニ際カセラレツ、アルコト
 ニ對シマシテ、深甚ナル謝意ヲ表シマスルト共ニ、今右益、苛烈ノ度

外務省

ヲ加ヘントスル戦局ニ対処シ、帝國ハ大東亞諸國ト共ニ歐洲盟邦トノ提
 携ヲ愈、固メ、必勝ノ確信ノ下、不抜ノ闘志ヲ以テ、如何ナル困難モ之ヲ
 克服シ、我等ノ共同使命トスル此ノ大東亞戦争ヲ完遂シ、大東亞連
 設ヲ完成改シマシテ、眞ノ世界平和ノ確立ニ貢獻セシコトヲ固ク期ス
 ル次ヲデアリマス。

外務省

二、中華民國代表汪行政院長閣下ノ一般的所見(翻譯)

(十一月五日)

世界史上偉大ナル意義ヲ有スル大東亞會議ガ、本日盟邦日本ノ首
 都ニ於テ奉行セラル、コトニナリマシテ、ロハ今東條総理大臣閣下
 ノ演説ヲ拜聴シ、大ニ感奮致シタ次ヲデアリマス。
 米英ノ東亞侵略ハ、百年以前ニ既ニ開始セラレタリデアリマシテ、
 今ヤ斯カル極メテ重大ナル時期ニ於キマシテ、日本ノ軍事力及ビ
 政治、經濟、文化、各方面ノ力ニ頼リテこそ、始メテ克ク米英ノ侵
 略野心ヲ抑制シ、東亞ヲ保全シ、米英ヲシテ割拠セシメザルコトガ
 出来レノデアリマス、且最近更ニ大東亞戦争勃發シ、米英ノ東亞ニ
 於ケル侵略勢カハ破砕セラレ、東太平洋及ビ南洋一帯ニ於ケル米
 英ノ陸海軍根拠地ハ、漸次日本陸海軍ノ撃破、占領スル所ト
 ナツタノデアリマス、日本ハ更ニ歩ヲ進メ、東方道義精神ニ基キ

外務省

東亜諸國家諸族ノ共存共栄ヲ図リ、其ノ独立自主ヲ援助シ、其ノ愛
國的希望ヲ達成セシメ、之ヲシテ各、其ノ部署ニ就カシメ、各、其ノ最
大ノ努力ヲ尽ミサシメ、大東亜戦争完遂並ニ大東亜建設ノ完成ノ責任
ヲ分担セシムルコトヲウタガヒテアリマス、私ハ斯レ日本ノ山宗高シテ偉大
ナル抱負及ビ其ノ光輝アル実績ニ対シ、茲ニ謹ンテ最大ノ敬意ヲ表
スルモノデアリマス。

同時ニ夙ニ友好関係ニアル滿、コトイハ西國並ニ新興「ビルマ」、「フィリ
ピン」西國及ビ自由印度假政府ガ、各、鞏固ナル決心ト撓マザル努力
トニ依リ、大東亜戦争及ビ大東亜建設ノ責任ヲ分担シテ居ラル、
コトニ對シ謹ンテ最大ノ敬意ヲ表スルモノデアリマス。

中華民國ガ東亜ノ一翬異トシテ、今固私ガ此ノ機会ニ於キマシテ、大
東亜戦争完遂ト大東亜建設ノ方針ニ関スル國民政府ノ決心ト努
力ニ付キマシテ申述ブルコトヲ得マスルノハ、洵ニ欣快ノ至リト存スル

外務省

次オデアリマス。

中華民國ノ國父孫先生一生ノ抱負ハ、即チ中國及ビ東亜ヲシテ米英
侵略勢力ノ桎梏ヲ破碎シ、其ノ独立自主ヲ完成セシムルニ在ツタノデア
リマス、斯ナル抱負ニ基キ、逝去ノ日ニ至ル迄滿四十年ノ間、畢生奮闘
闘ヲ続ケラレタノデアリマス、其ノ逝去ノ三ヶ月前、倫日テ日本ノ神戸
ニ於キマシテ二面ニ亘リ演説ヲセラレマシタガ、才一回ハ民國十三年十月二
十八日デアリマシテ、其ノ説ク所ハ即チ大東亜主義デアリマス、其ノ中
ニ於テ「我々東亜細亞ハ世界最古ノ文化ノ發祥地デアリ、抱ラス最近
百年以テ米英ノ侵略ヲ蒙リ、漸次衰微スルニ至リ、殆ンド一トシテ完
全ナル獨立國家ノ存在ヲ見ザルニ至ツタノデアレガ、其ノ衰微ガ極矣
ニ達シタトキ、突如其ノ轉換期ガ到来シタノデアレ、是即チ日本ノ
維新ニアツテ、此ノ日本ノ維新コソ、日本ガ東亜細亞ニ於テ先進國ト
ルノ原因トナツタノデアリ、同時ニ是ガ東亜細亞復興ノ出發点トナ

外務省

ツタノテアル、亜細亜各国ハ当然ハ先進國日本ト共ニ同心協力、東方ノ王道的文化ニ基キ、西方ノ霸道的文化ニ打勝テ、米英ノ侵略勢力ヲ完全ニ駆逐シ、亜細亜各国ノ團結ニ依リ亜細亜各国ノ独立自主ヲ完成セシメナケレバナラナイノデアル、斯クノ如クニシテ始メテ先ク亜細亜全体ヲ衰微ヨリ復興ニ導クコトが出来ルノデアルト謂ハレタリテアリマス。

第二回目ハ同年同月同日ノ演説デアリマシテ、ソレニハ「日本ハ当然中國ヲ援助シ不平等条約ヲ廢棄スベキデアルト述ベラレ、又其ノ中ニ「日支西國ハ兄弟ト同様デアリ、日本ハ嘗テ不平等条約ノ束縛ヲ受ケケル為テ奮奮興起シ、始メテ其ノ束縛ヲ打破シ、東方ノ先進國並ニ世界ノ強國トナツタ、中國ハ現在、同様ニ不平等条約廢棄ヲ獲得セントシツ、アルモノデアリ、日本ノ十分ナル援助ヲ切望スルモノデアリ、中國ノ解放ハ即チ東亞ノ解放デアリト説明セラレタリテアリマス。

以上二回ニ亘ル演説ハ國父孫先生ノ一生ヲ通シ最後の演説トナ

外務省

ツタノデアリマシテ、其ノ右國父孫先生ハ間モナク病魔ニ冒サレ、翌年三月十二日北京ニ於テ逝去セラレタリマスガ、逝去ノ時ニ當リ遺囑ヲ同志ニ遺サレ、同志ハ克ク此ノ遺志ニ從ヒ繼續奮闘シ、以テ其ノ貫徹ヲ期セヨト申サレタリマス、最モ不幸トスル所ハ、國父孫先生逝去後其ノ遺志未ダ實現スルコト能ハズ、日支ノ關係ハ好転ヲ見ザリシノミナラズ却テ日増シニ悪化シ、遂ニ民國二十六年七月事變ノ發生ヲ見ルニ至ツタコトデアリマス、正ニ國父孫先生逝去後十二年目ニ當ツテ居リマス。

此ノ時、日支ノ關係ハ決裂シタル為、米英ハ好機到レリトナシ、挑撥離間ヲ圖リ、日支事變ノ扩大延長ヲ冀ツタリデアリマス、我等同志ハ國父ノ遺志未ダ實現セザルヲ見、日支關係ノ日ニ悪化スルヲ見テ、痛心其ノ極ニ達シ、絶望ノ深淵ニ陥ラントシタリデアリマシタガ、幸ヒ日本政府ハ事變ヲ最短期間ニ打切ルベキ方針ヲ宣布セラレ、其ノ中ニ於テ、日本ノ目的トスル所ハ中國ノ滅亡ニ非ズシテ中國ノ興隆

外務省

ヲ冀ヒ、日本ハ中國ガ東亞建設ノ責任ヲ分担スベキコトヲ期待シ、又日本
 ガ中國ヲ援助スベキコトヲ決心シ、其ノ独立自主ノ願望ヲ達成セシムルコト
 ニ在ルコトヲ闡明セラレマシタ、我々同志ハ、日本ガ斯カル眞意ヲ宣布セ
 ラレタルコトヲ聞キ、日支關係ノ好転並ニ國父ノ遺志ヲ完成セシムル
 希望ノ存スルコトヲ承知シタノデアリマシテ、之ニ依リ先ヅ重慶政界ニ
 對シテ抗戰放棄、和平回復ヲ勸告致シマシタガ聽キ容レラザリシ爲
 ニ、已ムヲ得ズ重慶ヲ脱出シテ、和平運動ノ爲ニ奔走スルコトニ決シタノ
 デアリマス、竊テ國民政府ハ南京ニ遷都シ、正々堂々日支提携ヲ東
 亞復興ニ最大ノ努力ヲ致スコトニナツタノデアリマス。
 只今甲エケマシタ通り、米英ハ日支事變ニ對シ、常ニ排擠離間ニ努メ、
 其ノ拡大延長ヲ冀ワタノデアリマスガ、國民政府遷都以後ハ、斯カル手
 段ハ更ニ強化セラレ、米英ハ重慶ニ對シテ抗戰ヲ強化、和平ノ阻止等
 ニ関シ有ラユル手段ヲ講ジタノデアリマス、其ノ右大東亞戰爭勃發

外務省

スルニ至リ、米英ハ其ノ東亞ニ於ケル勢力ガ挫折消失セルニ鑑ミ、益々
 重慶ヲ利用シテ日本ヲ牽制スルノ力途ヲ強化セルコトハ、既ニ世人
 ノ但ニ知ル事實デアリマスガ、我々ハ敢テ米英ノ斯カル計畫が間
 モナク失敗ニ歸スベキコトヲ断定スル次第デアリマス、何故ナラバ重慶側
 ノ將士及ビ民衆ハ悉ク國父孫先生ノ遺教ニ歸依シテ居ルノデアリ
 マシテ、本年一月九日以来、日本ハ中國ニ對シ早クモ租界ヲ還付シ、
 治外法權ヲ撤廃シ、殊ニ最近ニ至リ日華同盟條約ヲ以テ日華
 基本條約ニ代ヘ、今時ニ各種附屬文書ヲ一切廢止サレタノデア
 リマス、國父孫先生ガ提唱セラレマシタ大亞細亞主義ハ既ニ
 光明ヲ奔見シタノデアリマス、國父孫先生ガ日本ニ對シ切望
 致シマシタ所ノ、中國ヲ扶ケテ不平等條約ヲ廢止スルコトイフ
 コトモ、既ニ實現セラレタノデアリマス、彼等米英ガ如何ニ誘惑心シ
 如何ニ阻止スルト虽モ、重慶側ノ覺醒ヲ阻止スルコトハ出来ナ

外務省

